

事項	<p>だいたいのマメシクイガに対するエトフェンプロックスマイクロカプセル剤（トレボンスカイMC）の無人ヘリコプター散布による防除法</p>		
ねらい	<p>だいたいの作付拡大、団地化が進むなかで病害虫防除に対し省力化が求められているが、近年多発する品質阻害害虫のマメシクイガに対して、これまで省力的防除として期待される無人ヘリコプター用薬剤がなかった。そこで、エトフェンプロックスマイクロカプセル剤（トレボンスカイMC）の防除効果を検討した結果、効果が認められ、農薬登録されたので参考に供する。</p>		
指導 参考 内容	<p>1 エトフェンプロックスマイクロカプセル剤の使用方法  (1) 無人ヘリコプターにより本剤8倍液の1ha当たり80量または16倍液の1ha当たり160量を、早生種は8月第5半旬、中晩生種は8月第6半旬に1回散布する。ただし、多発生の場合は散布7日後に2回目の散布を行う。</p> <p>2 エトフェンプロックスマイクロカプセル剤の農薬登録内容  (1) 薬剤名等  ア 一般名：エトフェンプロックスマイクロカプセル剤  イ 商品名：トレボンスカイMC  ウ 有効成分：エトフェンプロックス 20%  エ 人畜毒性：普通物  オ 魚毒性：B類</p> <p>(2) 使用基準  ア 登録年月：平成17年7月  イ 適用病害：だいたいのマメシクイガ  ウ 使用量：8倍液 80/1ha  16倍液 160/1ha  エ 使用方法：無人ヘリコプターによる散布  オ 使用時期：収穫14日前まで  カ 使用回数：2回以内  キ 総使用回数：エトフェンプロックスを含む農薬 2回以内</p>		
期待される効果	<p>だいたいのマメシクイガに対して省力的防除が行われ、安定生産に寄与する。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成18年3月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。  2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録情報（<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>）を確認する。  3 利用上の留意事項を遵守する。</p>		
担当	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>平成13、14年度 青森県農業試験場成績概要集</p>		

## 【根拠となった主要な試験結果】

表1 だいののマメシクイガの多発生ほ場におけるトレボンスカイMC 2回散布の防除効果 (平成14年 青森農試)

供試薬剤名	希釈倍数 散布量	散布 月日	調査 莢数	被害 莢数	被害 率(%)	調査 粒数	被害 粒数	被害 率(%)	薬害
トレボンスカイMC エトフェンプロックス 20%	8倍 8ℓ/ha	8月27日 9月2日	578.7	8.7	1.5 (3.1)	1046.7	12.0	1.1 (2.3)	-
トレボンスカイMC エトフェンプロックス 20%	16倍 16ℓ/ha	8月27日 9月2日	467.0	11.3	2.4 (5.0)	815.0	18.3	2.2 (4.5)	-
対)トレボンMC(絶上散布) エトフェンプロックス 20%	1,000倍 150ℓ/10a	8月27日 9月2日	414.3	4.3	1.0 (2.1)	728.3	6.7	0.9 (1.8)	-
無処理	-	-	485.7	237.3	48.9 (100)	829.3	414.7	50.0 (100)	-

(注) 試験ほ場：つがる市木造現地ほ場、品種：おおすず、は種：6月4日、収穫：10月10日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.7m×株間0.15m、1区22.5a(22.5×100m)、ただし対照区は1.6a(8×20m)、無処理区は1.3a(12×36m)、1区制、害虫発生状況：甚発生。8月27日及び9月2日(子実登熟期)に所定濃度の供試薬剤を無人ヘリコプター(ヤマハR-MAX)で1ha当たり8ℓ量を散布。対照薬剤は背負式動力噴霧器で150ℓ/10a量を散布。各区3か所×20莢を採取し、乾燥後に被害率及び粒率を調査。薬害は肉眼で観察した。表中の下端( )内数値は対無処理比。

表2 だいののマメシクイガの多発生ほ場におけるトレボンスカイMC 1回散布の防除効果 (平成13年 青森農試)

供試薬剤名	希釈倍数 散布量	散布 月日	調査 粒数	被害 粒数	被害 率(%)	薬害
トレボンスカイMC エトフェンプロックス 20%	8倍 8ℓ/ha	8月30日	1695.3	532.7	31.4 (76.8)	-
トレボンスカイMC エトフェンプロックス 20%	16倍 16ℓ/ha	8月30日	1073.3	499.7	46.6 (113.8)	-
対)トレボンMC(絶上散布) エトフェンプロックス 20%	1,000倍 100ℓ/10a	8月30日	1500.3	246.3	16.4 (40.1)	-
無処理	-	-	1251.3	512.0	40.9 (100)	-

(注) 試験ほ場：つがる市木造現地ほ場、品種：おおすず、は種：6月4日、収穫：10月10日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.7m×株間0.15m、1区22.5a(22.5×100m)、ただし対照区は5.8a(18×35m、一部区外あり)、無処理区は0.5a(5×10m)、1区制、害虫発生状況：甚発生。8月30日(子実登熟期)に所定濃度の供試薬剤を無人ヘリコプター(ヤマハR-MAX)で1ha当たり8ℓ量を散布。対照薬剤は背負式動力噴霧器で100ℓ/10a量を散布。各区3か所×20莢を採取し、乾燥後に被害粒率を調査。薬害は肉眼で観察した。表中の下端( )内数値は対無処理比。

表3 だいののマメシクイガに対するトレボンスカイMC 2回散布の防除効果 (平成15年 宮城植防)

供試薬剤名	希釈倍数 散布量	散布 月日	調査 莢数	被害 莢数	被害 率(%)	調査 粒数	被害 粒数	被害 率(%)	薬害
トレボンスカイMC エトフェンプロックス 20%	8倍 8ℓ/ha	8月29日 9月5日	1897	3	0.16 (2.5)	4128	6	0.15 (2.5)	-
対)トレボンMC(絶上散布) エトフェンプロックス 20%	1,000倍 150ℓ/10a	8月29日 9月5日	1456	0	0 (0)	2935	0	0 (0)	-
無処理	-	-	1623	104	6.41 (100)	3333	199	5.97 (100)	-

(注) 試験ほ場：宮城県古川市敷玉、品種：ミヤギシロメ、は種：6月4日、収穫：11月11日、露地栽培、栽植密度：うね幅0.75m×株間0.25m、1区5.8a(47×12.3m)、ただし対照区及び無処理区は2.5a(20×12.3m)、1区制、害虫発生状況：少発生。8月29日及び9月5日に所定濃度の供試薬剤を無人ヘリコプター(ヤマハR-MAX)で1ha当たり8ℓ量を散布。対照薬剤は背負式動力噴霧器で150ℓ/10a量を散布。各区3か所×15莢を採取し、乾燥後に被害率及び粒率を調査。薬害は肉眼で観察した。表中の下端( )内数値は対無処理比。

(参考価格) トレボンスカイMC 1瓶1ℓ 約9,300円、 930円/10a